



## 2022年3月期 第2四半期決算短信[日本基準](連結)

2021年11月9日

上場会社名 関西ペイント株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4613 URL <https://www.kansai.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 毛利 訓士  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員 経営推進部門長 (氏名) 高原 茂季 TEL 06-6203-5531  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月10日 配当支払開始予定日 2021年12月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	203,301	25.1	16,833	82.3	20,781	108.9	11,487	168.3
2021年3月期第2四半期	162,494	△22.1	9,233	△47.1	9,948	△47.1	4,281	△56.3

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 26,665百万円(－%) 2021年3月期第2四半期 △714百万円(－%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	44.70	41.58
2021年3月期第2四半期	16.66	15.46

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	589,433	357,589	51.8
2021年3月期	606,580	338,859	47.3

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 305,138百万円 2021年3月期 286,799百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2022年3月期	—	15.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	410,000	12.4	34,000	8.9	40,000	11.5	24,000	19.8	93.39

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

※ 注記事項

(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動):無

(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用:有

(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 :有
- ② ①以外の会計方針の変更 :無
- ③ 会計上の見積りの変更 :無
- ④ 修正再表示 :無

(4)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	272,623,270株	2021年3月期	272,623,270株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	15,643,170株	2021年3月期	15,603,530株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	256,998,458株	2021年3月期2Q	257,054,181株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(会計方針の変更) .....	9
(セグメント情報) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当期における世界経済は、国・地域ごとにばらつきを伴いつつも、総じて持ち直しが続きました。そのような状況下、中国では景気は回復を続けています。米国及び欧州の景気は新型コロナウイルス感染症のワクチン接種進捗に伴う経済活動の再開を背景として持ち直しています。その他のアジア新興国及びアフリカにおいては、景気は感染症の再拡大が見られる一部の地域を除いて、持ち直しの動きが見られました。わが国経済は、国内外における感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるものの、輸出や生産が増加を続けるなど、基調としては持ち直しています。

当社グループの当第2四半期連結累計期間における売上高は2,033億1百万円（前年同期比25.1%増）となりました。営業利益は売上高の大幅な増加を受け、168億33百万円（前年同期比82.3%増）となりました。経常利益は持分法投資利益の増加などにより207億81百万円（前年同期比108.9%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、114億87百万円（前年同期比168.3%増）となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりであります。

#### 《日本》

自動車分野は、新車用分野及び自動車部品向け塗料では自動車生産台数が前年を上回り、売上は増加しました。工業分野では、産業機械向け塗料などが堅調に推移し、売上は前年を上回りました。建築分野では家庭用塗料の需要の低下により、売上は前年を僅かながら下回りました。船舶分野では、修繕船向けが堅調に推移し、売上は前年を上回りました。自動車分野（補修用）及び防食分野では、国内市況の回復を受け、売上は前年を上回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は686億41百万円（前年同期比2.3%増）、経常利益は66億31百万円（前年同期比22.7%増）となりました。

#### 《インド》

自動車分野及び建築分野では、新型コロナウイルス感染症第2波による経済活動低迷の影響を受けたものの、前年が年初における新型コロナウイルス感染症拡大を抑止するためのロックダウンの影響を大きく受けていたこともあり、売上は前年を上回りました。一方で原材料価格高騰の影響を受け、利益は微増にとどまりました。

これらの結果、当セグメントの売上高は454億88百万円（前年同期比56.5%増）、経常利益は39億48百万円（前年同期比1.1%増）となりました。

#### 《欧州》

トルコでは、自動車生産台数が前年を上回ったことや工業分野において堅調な需要に支えられたことにより、売上は前年を上回りました。その他欧州各国においても、工業用分野及び建築分野を中心に堅調な需要に支えられ売上は前年を上回り、欧州全体の売上は前年を上回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は413億96百万円（前年同期比34.3%増）、経常利益は39億64百万円（前年同期比136.2%増）となりました。

#### 《アジア》

中国においては、自動車生産台数の回復を受け、自動車分野での売上は前年を上回りました。工業分野では産業機械向け塗料が堅調に推移し、売上は前年を上回りました。これらの結果、中国全体での売上は前年を上回りました。インドネシア、タイ及びマレーシアにおいては、自動車生産台数の回復を受け、売上は前年を上回りました。利益は、売上高が増加した影響に加え、中国における持分法投資利益が増加したことなどにより、大幅に増加しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は289億2百万円（前年同期比32.1%増）、経常利益は47億11百万円（前年同期比479.0%増）となりました。

#### 《アフリカ》

南アフリカ及び近隣諸国の経済は新型コロナウイルス感染症拡大により厳しい状況が続いたものの、建築分野の需要を取り込み、南アフリカ地域の売上は伸長しました。東アフリカ地域においても、建築分野において堅調な需要を取り込み売上は伸長し、アフリカ全体の売上は前年を上回りました。また、前年度より不採算事業の整理及び固定費の削減を進めた結果、収益性が改善されました。

これらの結果、当セグメントの売上高は160億64百万円（前年同期比39.1%増）、経常利益は5億14百万円（前年同期比 - %）となりました。

《その他》

北米では、自動車生産台数の回復を受け、自動車部品向け塗料などの売上は前年を上回り、また持分法投資利益も大幅に増加しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は28億7百万円（前年同期比34.7%増）、経常利益は10億10百万円（前年同期比618.0%増）となりました。

なお、前連結会計年度まで工業分野に区分しておりました自動車部品向け塗料につきましては、当連結会計年度より自動車分野に区分しております。

(2) 財政状態に関する説明

(財政状態の状況)

① 流動資産

当第2四半期連結会計期間末における流動資産合計は、2,736億45百万円（前連結会計年度末比268億25百万円減）となりました。流動資産の減少は、主に現金及び預金などが減少したことによるものであります。

② 固定資産

当第2四半期連結会計期間末における固定資産合計は、3,157億88百万円（前連結会計年度末比96億79百万円増）となりました。固定資産の増加は、主に投資有価証券などが増加したことによるものであります。

③ 流動負債

当第2四半期連結会計期間末における流動負債合計は、1,825億円93百万円（前連結会計年度末比262億36百万円増）となりました。流動負債の増加は、主に1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債などが増加したことによるものであります。

④ 固定負債

当第2四半期連結会計期間末における固定負債合計は、492億50百万円（前連結会計年度末比621億12百万円減）となりました。固定負債の減少は、主に転換社債型新株予約権付社債などが減少したことによるものであります。

⑤ 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、3,575億89百万円（前連結会計年度末比187億30百万円増）となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ455億53百万円減少し628億23百万円となりました。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比91億88百万円収入が減少し、47億50百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益222億60百万円、減価償却費70億21百万円、仕入債務の増加額58億23百万円などの収入、棚卸資産の増加額117億55百万円、法人税等の支払額107億92百万円、売上債権の増加額34億89百万円などの支出によるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比21億17百万円支出が増加し、8億60百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出額53億4百万円などの支出、有価証券の減少額35億10百万円などの収入によるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比785億93百万円支出が増加し、516億円の支出となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出額466億40百万円、配当金の支払額38億73百万円などの支出によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、本日（2021年11月9日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	114,292	68,696
受取手形及び売掛金	105,129	109,790
有価証券	10,154	6,721
商品及び製品	35,782	41,150
仕掛品	5,538	6,759
原材料及び貯蔵品	24,346	32,858
その他	8,498	11,428
貸倒引当金	△3,269	△3,759
流動資産合計	300,471	273,645
固定資産		
有形固定資産	127,220	129,854
無形固定資産		
のれん	29,882	29,310
その他	21,452	21,501
無形固定資産合計	51,335	50,812
投資その他の資産		
投資有価証券	86,942	92,297
その他	45,213	47,396
貸倒引当金	△4,602	△4,572
投資その他の資産合計	127,552	135,121
固定資産合計	306,108	315,788
資産合計	606,580	589,433

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	63,808	70,372
短期借入金	6,013	9,192
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	-	60,035
未払法人税等	7,471	4,130
賞与引当金	4,749	4,866
その他	74,314	33,997
流動負債合計	156,357	182,593
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	60,060	-
退職給付に係る負債	8,598	8,660
その他	42,703	40,590
固定負債合計	111,363	49,250
負債合計	267,720	231,844
純資産の部		
株主資本		
資本金	25,658	25,658
資本剰余金	21,081	21,081
利益剰余金	260,799	268,421
自己株式	△25,844	△25,964
株主資本合計	281,695	289,197
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,400	37,967
繰延ヘッジ損益	△1,003	645
為替換算調整勘定	△31,130	△26,364
退職給付に係る調整累計額	3,838	3,691
その他の包括利益累計額合計	5,104	15,940
非支配株主持分	52,059	52,451
純資産合計	338,859	357,589
負債純資産合計	606,580	589,433

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	162,494	203,301
売上原価	110,002	140,005
売上総利益	52,491	63,296
販売費及び一般管理費	43,258	46,462
営業利益	9,233	16,833
営業外収益		
受取利息	306	220
受取配当金	872	809
持分法による投資利益	1,790	3,107
為替差益	-	332
雑収入	714	807
営業外収益合計	3,684	5,278
営業外費用		
支払利息	780	717
棚卸資産廃棄損	137	250
為替差損	678	-
雑支出	1,371	361
営業外費用合計	2,968	1,330
経常利益	9,948	20,781
特別利益		
固定資産売却益	19	41
投資有価証券売却益	12	668
関係会社株式売却益	374	24
関係会社出資金売却益	1,634	-
子会社清算益	-	13
受取保険金	-	809
特別利益合計	2,041	1,558
特別損失		
固定資産除売却損	44	61
災害による損失	1,355	-
早期割増退職金	-	17
特別損失合計	1,400	79
税金等調整前四半期純利益	10,589	22,260
法人税等	5,634	7,319
四半期純利益	4,955	14,941
非支配株主に帰属する四半期純利益	674	3,453
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,281	11,487

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	4,955	14,941
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,390	3,542
繰延ヘッジ損益	△2,178	1,578
為替換算調整勘定	△6,535	4,319
退職給付に係る調整額	189	△146
持分法適用会社に対する持分相当額	△536	2,429
その他の包括利益合計	△5,670	11,723
四半期包括利益	△714	26,665
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	376	22,323
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,091	4,341

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	10,589	22,260
減価償却費	7,006	7,021
のれん償却額	1,705	1,862
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	289	320
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	172	△639
受取利息及び受取配当金	△1,179	△1,030
支払利息及び社債利息	780	717
持分法による投資損益 (△は益)	△1,790	△3,107
投資有価証券売却損益 (△は益)	△12	△668
関係会社株式売却損益 (△は益)	△374	△24
関係会社出資金売却損益 (△は益)	△1,634	-
固定資産除売却損益 (△は益)	25	19
売上債権の増減額 (△は増加)	2,988	△3,489
棚卸資産の増減額 (△は増加)	134	△11,755
仕入債務の増減額 (△は減少)	△6,165	5,823
その他	2,838	△4,981
小計	15,373	12,330
利息及び配当金の受取額	3,056	3,948
利息の支払額	△780	△736
法人税等の支払額	△3,710	△10,792
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,938	4,750
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△1,614	△1,759
定期預金の払戻による収入	1,795	1,872
有価証券の純増減額 (△は増加)	790	3,510
有形固定資産の取得による支出	△4,393	△5,304
有形固定資産の売却による収入	62	63
無形固定資産の取得による支出	△356	△646
投資有価証券の取得による支出	△14	△23
投資有価証券の売却による収入	0	1,153
貸付けによる支出	△36	△24
貸付金の回収による収入	1,025	143
デリバティブ決済による収支 (純額)	3,034	-
その他	963	154
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,256	△860
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△8,057	2,577
長期借入れによる収入	43,103	5
長期借入金の返済による支出	△1,906	△46,640
自己株式の取得による支出	△6	△5
配当金の支払額	△3,873	△3,873
非支配株主への配当金の支払額	△1,760	△3,288
その他	△504	△374
財務活動によるキャッシュ・フロー	26,993	△51,600
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,169	2,156
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	41,019	△45,553
現金及び現金同等物の期首残高	50,594	108,377
現金及び現金同等物の四半期末残高	91,613	62,823

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、一部の有償支給取引について、当連結会計年度より金融取引として棚卸資産を引き続き認識するとともに、有償支給先に残存する支給品の期末棚卸高について金融負債を認識しております。また、売上りべと等の顧客に支払われる対価については、従来、販売費及び一般管理費として処理する方法によっておりましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

なお、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	日本	インド	欧州	アジア	アフリカ	計				
売上高										
(1) 外部顧客への売上高	67,080	29,072	30,826	21,884	11,546	160,410	2,084	162,494	-	162,494
(2) セグメント間の内部 売上高または振替高	4,473	16	49	1,074	60	5,675	-	5,675	△5,675	-
計	71,554	29,089	30,876	22,958	11,607	166,085	2,084	168,169	△5,675	162,494
セグメント利益または損失 (△)	5,404	3,904	1,678	813	△1,992	9,807	140	9,948	-	9,948

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、アメリカ・メキシコ等の現地法人の事業活動を含んでおります。

2. セグメント利益または損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

4. 日本以外の各セグメントに属する主な国または地域
- インド……インド、バングラデシュ、ネパール等
  - 欧州……スロベニア、トルコ、オーストリア等
  - アジア……インドネシア、タイ、中国等
  - アフリカ……南アフリカ、ウガンダ、ジンバブエ等

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	日本	インド	欧州	アジア	アフリカ	計				
売上高										
(1) 外部顧客への売上高	68,641	45,488	41,396	28,902	16,064	200,494	2,807	203,301	-	203,301
(2) セグメント間の内部 売上高または振替高	5,928	32	99	1,268	125	7,454	-	7,454	△7,454	-
計	74,570	45,521	41,496	30,170	16,189	207,948	2,807	210,755	△7,454	203,301
セグメント利益	6,631	3,948	3,964	4,711	514	19,770	1,010	20,781	-	20,781

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、アメリカ・メキシコ等の現地法人の事業活動を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

4. 日本以外の各セグメントに属する主な国または地域  
 インド……インド、バングラデシュ、ネパール等  
 欧州……スロベニア、トルコ、オーストリア等  
 アジア……インドネシア、タイ、中国等  
 アフリカ……南アフリカ、ウガンダ、ジンバブエ等

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。

当該変更が報告セグメントの売上高及びセグメント利益に与える影響は軽微であります。